

講演テーマ

【最後までその人らしく生きるを支える

—意思決定を支援する医療・介護関係者の役割—】

講師：北海道医療大学名誉教授 日本看護管理学会監事 石垣靖子先生

日時：2018年7月20日(金)

・医療者の役割：その人が望むような「**よい時**」を生きることが出来るように身体状況を整えること

・人は「**生きるための治療ではなく目標を達成するための治療を受けたい**」と思っている

・病気はもちろん治して欲しいがそれよりも「**自分の生き方や、やりたいことをどうするか**」の方がより大事な問題

・高齢者の入院：「本人の満足」を物差しに苦痛の緩和と QOL の向上に最大限の配慮を！

***長生きした人生の終わりの大切な日々が、本人も周囲の人たちにとっても肯定できるものであるように**

・AD から ACP へ

AD：自分に対して行われる医療についてあらかじめ意向を書面に残す

ACP：書面作成が目的ではなく話し合いや対話のプロセスを重視

コミュニケーションが大事

・対話のポイント：相手の感情「思い」に手を当てる、目を向ける

看護師は相手の問題を探す人ではなく「**今この人がどんな力を持っているか**」を見極め、それを引き出すことが看護

・地域包括ケアの時代：長期にわたる外来での継続的な看護が必要な時代

入院から外来へ 外来看護師がキーパーソンになって症状だけではなく「人間」に関心を寄せることが大切

・家庭内では愛という名の支配・抱え込みがある⇒患者本人にとって良いと思い込んで勝手にする。本人の克服する力を過小評価し本人に犠牲を強いことがある

・医療者は「人間を診る・看る」専門職

・病気だけでなく私を見て！という思いを大切に **PATIENT** から **PERSON** へ

・看護師が出会う人たちは固有のかけがえのない人生を生きている。病む人に出会いながら患者の人生に深くかかわり、その人の人生が変わり看護師自身も変わる。素晴らしい特権が与えられた職業

・専門職を選んだ以上日々努力を怠らず力をつけ 協働しコミュニケーション能力を身に着けることが大切